

# 大分建設新聞社

2023年11月9日掲載

## 円滑な工事着手を

### 要望6項目

### 県と意見交換

大建協土木委

県建設業協会土木委員会は6日、大分市内で県土木建築部建設政策課などの意見交換会を開いた。委員側からは円滑な工事着手、ICT活用工事の推進、委託成果品の品質向上など6項目について要望。県側からの情報提供などを含めて意見を交わした。



土木委員長が挨拶する様子。業界が夢と誇りを持って地域の守り手として県民に認めてもらえよう、これからも努力していく、県の中村充宏参事監兼建設政策課長が「担い手不足の深刻化、2024年問題など、きょうの要望をいただき、一つでも改善できるよう取り組んでいく」と、それぞれあいさつ。

大庭浩司土木委員長が「今後、私たちも収益が取れる、福利厚生がある企業を目指していかなければならない。また、ICTを含めて多種多様な工事へは、経営者と働く人が理解と工夫を凝らせば、必ず対応で

れあいさつ。

協会側から以下について要望をし、県側からの情報提供を含めて、活発に意見を交わした。

- ▽円滑な工事着手⇨他機関などとの調整後に発注することを徹底し、円滑な工事ができるようにしてほしい
- ▽ICT活用工事⇨労働力不足、働き方改革を推進するために重要であると理解しているが、なかなか活用できていない。実施した場合の費用計上を面的管理ではなく、通常管理も認めてほしい。また、創意工夫の評価も面的管理がなくても評価を

- ▽委託成果品の品質向上⇨協会、県測量設計コンサルタント協会、発注者で施工段階でも手戻りや手持ちを防ぐため、3者でワーキンググループをつくって取り組みを始めたが、今後の方針を聞かせてほしい
- ▽道路維持管理の経費⇨草刈りの単価が低く、現状では、まだ一般工事より利潤が少ない。今以上の経費見直し、全ての維持工事で経費改正を
- ▽時間外労働の上限規制適用に伴う対応⇨業界は大きな問題と捉え、今後は極力時間外労働をしない取り組み方を考えている。今後の制度、運用

に向けての考え方があれば、教えてほしい

▽日当たり施工量の少ない工事⇨1日未満の工事は、見積もりなどで対応する特別ルールがあると聞いているが、現

在、日当たり施工量が1日未満の工事でも変更してくれないことがある。特にB・C等級業者の場合で多いと聞いている。再度の徹底を。

(大嶋聖三)